

令和6年度 学校法人 むかわ文化学園 むかわひかり認定こども園 園評価（自己評価）

評価 3：よくできている 2：まあまできている 1：あまりできていない 0：できていない

1 保育の計画性

	内 容	評価点
①	園の教育理念や教育方針を理解する	2. 5
②	幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解し、それをもとに保育計画を立てる	2. 1
③	日・月案は、園の方針、教育要領、教育課程、幼児の実態をもとに作成している	2. 4
④	クラスの保育・教育指導はクラス担任が十分話し合い、協働体制で取り組みをする	2. 8
⑤	幼児が主体的にかかわりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をする	2. 4
⑥	季節の変化に応じた環境構成をする	2. 2
⑦	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をする	2. 2
⑧	自分の保育を評価し、反省して次の保育に生かす	2. 5
～主な成果（よくできたこと）～		
・クラス担任で子どもの今の育ちを話し合い、遊びの工夫を加え、子どもが楽しく過ごせるよう計画を立てた。		
・設定保育の時間に他クラスとの遊びの時間を作ったり、園庭遊び等で異年齢児と関われるような声掛けや促しを心掛けた。		
・年間指導計画を参考にしながら、子ども自身が安心して色々な活動に楽しく取り組めるよう、題材や内容を変更したり工夫をした。		
～課題（今後やるべきこと）～		
・今まで通り協力し合い保育に取り組む。		
・その日一日の保育だけではなく、先の行動や季節の事などを考えながら保育をしていく。		
・一日の保育で子どもとの関りが上手くできない時は反省しながら次のステップを考え、日々の保育に活かす。		
・保育室が整理整頓されていないことが度々あったので、ため込みすぎないよう気を付け、清潔に保つよう心掛ける。		

2 保育の在り方、幼児への対応（3～5歳児の担当者）

	内 容	評価点
①	朝の登園時は視診を大切に幼児の体調が悪くないかを確認する	2. 8
②	幼児の話をよく聞き、言葉にならない思いや、サインを受け止めるよう心掛ける	2. 4
③	幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心掛ける	2. 6
④	幼児を誉めたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉がけをする	2. 6
⑤	他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようさまざまな工夫、保育の形態を取り入れる	2. 1
～主な成果（よくできたこと）～		
・朝クラスに入った時は、子ども一人一人の様子をしっかり観察し、子どもの体調の変化に目を向けて声掛けを心掛けた。また、体調が悪いことに気づき、迅速な対応を取ることができた。		
・できたことに対して褒めたり、色々な会話を通して、コミュニケーションをとることが出来た。		
～課題（今後やるべきこと）～		
・子ども同士の関りで上手に気持ちを伝えられない場面も見られるため、気持ちを汲み取り、仲介できるように心掛ける。また、子どもの姿に寄り添い、適した対応がとれるよう今後も関わっていく。		
・子どもの話を聞くことはできたが、もっと褒めたり、励ましたりの声かけを多くしていく。		
・行動面、生活面の中で全体から遅れをとってしまう子への対応や促しの工夫。		

3 保育の在り方、乳幼児への対応（0～2歳児の担当者）

	内 容	評価点
①	朝の登園時は視診を大切にして、乳幼児の健康状態を確かめる	2. 8
②	体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど、適切な処置を行いすぐに家庭に連絡する	3. 0
③	家庭と連絡をとりながら一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ食への意欲を育てる（0歳児）	2. 5
④	一人ひとりの排泄間隔を把握し、その子の排泄のリズムに合わせて、オムツ交換をしたり トイレに促している（1～2歳児）	2. 6
⑤	乳幼児の話をよく聞き、言葉にならない思いやサインを受け止めるよう心掛ける	2. 5
⑥	月指導計画により、一人ひとりの乳幼児の発達課題について見通しをもって保育する	2. 4
～主な成果（よくできたこと）～ ・保護者とのコミュニケーションを大切にし、園での様子をわかりやすく伝わるように、言葉選びや内容を考えて伝えていった。 ・子どもの話に耳をかたむけること、スキンシップをとること、表情や行動の変化に気付くことを心がけ、また、さまざまな月齢の子と関わる中で、その子に合った保育を模索し、考えながら保育をする事が出来た。 ・朝の視診や、日中の保育の中で普段と少しでも違う様子が見られた場合には、こまめに検温をするなどの対応を心掛け、早目に保護者へ連絡することが出来た。		
～課題（今後やるべきこと）～ ・ケガのないように、子どもたち同士のトラブルに気を付ける。 ・一人一人の成長に合わせた食事形態や遊びの中での成長のうながしなど、考えながら保育計画をたて、しっかりどうだったか見返り成長を見守りながら、その時に合った遊びを提供していきたい。 ・保育に追われてしまうと、子どもができることもこちらで先回りをして援助してしまうことが反省点だった。その子の発達課題をクリアできるよう、適切な関わりをしていく。		

4 保育者としての資質や能力、良識、義務

	内 容	評価点
①	保育をとおして保護者との信頼関係を築くよう努める	2. 3
②	保育時間外でも、保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がける	2. 5
③	職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る	3. 0
④	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全にも気をつける	2. 9
⑤	教育・保育業務を効率よく遂行するため、締め切りのある行事計画や会議等の提出物、会議や打ち合わせの時間をきちんと守る	2. 4
⑥	子どものこと、クラスの出来事などで必要な事は園長や副園長、主任に報告、連絡、相談する	2. 9
⑦	上司の指示、命令には責任を持って実行し、他の職員とコミュニケーションをとり、チームワークを大切にし対応する	2. 9
⑧	幼児の教育・保育に関する情報を日頃から得ようと努める	2. 3
～主な成果（よくできたこと）～ ・担任としての責任を自覚し、周りとの連携を取りながらより良い保育ができるように努めた。 ・保育で困ったり、悩んだりしたときに、園長や副園長にクラスの様子や相談事を伝えたことで助言をいただき、保育に活かすことが出来た。また、子ども達の成長と一緒に感じていただけた。 ・業務中で疑問に思ったことは、すぐに自分で判断をせず、一度相談をすることを心掛けた。 ・職員間で仕事の分担や協力を得ることが出来、困っていることは誰にでも相談できた。		

～課題（今後やるべきこと）～ ・欠席理由など書かれているノートを保護者の目に入るところに置いてしまうことがあったので、気を付ける。 ・保育に関する情報に目を向けることができていなかった。 ・もっと自分自身のスキルアップをし、周りに頼りすぎずに、出来ることを増やしていく。 ・親しみやすい雰囲気を作り、保護者との信頼関係を築きたい。 ・先を見通して計画的に物事を進められるようにする。 ・積極的に他の職員とのコミュニケーションをとり、自分の考えや保育の改善点や課題を知り、取り組んでいくこと。

5 保護者への対応・守秘義務

	内 容	評価点
①	個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳、電話などを使って伝える	2. 7
②	普段から親しみを込めた挨拶や会話を心がけ、保育者として良識ある対応をする	2. 8
③	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らさない	3. 0
④	保護者からの依頼や伝言等については、メモするなどきちんと対応する	2. 6
⑤	保護者からのクレームがあった場合は、謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談する	2. 8
～主な成果（よくできたこと）～ ・安心してお子様を預けられるよう、常に笑顔を中心掛けた。 ・保護者に対しても笑顔で接することを意識し、園の行事などで分からないことを質問された時は、必ず確認してから返答した。 ・常日頃、保護者とのコミュニケーションを忘れず、信頼を築けるよう努めた。また、挨拶や言葉づかいには十分気を付けた。		
～課題（今後やるべきこと）～ ・今後も誠意を持った行動や会話に心掛け安心される保育を実践していく。 ・保護者の話を落ち着いて聞き状況や問題点など、把握できるよう努める。 ・保護者の方々に、お子様の園での様子や成長を感じて頂けるよう、連絡帳や会話で伝えていく。 ・保育者間での伝言等の共有をお互い忘れずにしていきたい。		

6 地域の自然や社会とのかかわり

	内 容	評価点
①	園外散歩や公園の活用をとおして、地域の人々と親しく挨拶を交わす	2. 8
②	地域の自然や公共施設を指導計画の中で位置づけて活用する	2. 6
③	実習生や中高生の保育体験、ボランティアを受け入れるときは、親しみを込めた挨拶や会話を心がける	2. 6
④	保育・教育実習生には、園での実習が学び多きものになるよう、丁寧な指導を行う	2. 3
～主な成果（よくできたこと）～ ・実習生や、中高生に対して挨拶や会話を心掛け、不安にならないよう笑顔で対応した。 ・保育者が会った人にしっかり挨拶することで、子どもたちも積極的に挨拶することが多くなった。 ・暖かい日や天気の良い日には散歩や戸外活動を楽しみ、その中で地域の方への挨拶も心掛けた。子ども達からも進んで挨拶する様子が見られた。		

～課題（今後やるべきこと）～ ・今後も中高生の職場体験や保育・教育実習の機会があるので親しみを込め、丁寧な指導をする。 ・気温や天候にもよるが、もっと自然の移り変わりを感じられるよう、周りの公園やお寺を訪れる。 ・園のことをもっと知り、保育体験や実習に来た方々に、子ども達とのかかわりの中で行う行事や遊びについてより深く伝えてあげられるようにしていきたい。

7 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度

	内 容	評価点
①	研修会等には、目的意識を持って参加し、報告書は必ず提出する	1. 9
②	自分の保育については、自己課題を持ち計画や反省を行う	2. 2
③	園の遊具・教材の利用方法を知って、危険のないよう活用する 施設設備の安全確保及び子ども達の保育・教育の安全指導の取り組み（事故防止チェック：年4回）	2. 5
④	子どもを取り巻く様々な情報に関心を持ち、保育に役立てる	2. 2
⑤	子ども達の安心、安全に関する危機管理に興味や関心を持って取り組む	2. 7
～主な成果（よくできたこと）～ ・研修会に参加して、様々な知識を学ぶことができた。報告書は提出できたが、期限間近だったため、余裕をもって作成する。 ・注目していた研修に参加し、知識を深めることができた。 ・自分自身資格取得し、少しステップアップできたと思う。 ・研修先で得たスキルや知識をもとに、実際にこども園でもすぐ取り入れて行っていた。		
～課題（今後やるべきこと）～ ・研修の参加が少なかった。意識して情報収集に努める。 ・クラスの事や余裕を考えるとあまり新しい事を取り入れることが難しく出来なかった。反省をしていかせる部分となかなか改善しない所があった。 ・自分の保育にどんなことをやりたいか考えはあったが、実行にはいたらなかったので、工夫して保育できるようにする。 ・保育での新たな知識等を取り入れて行く。		

8 地域における子育て支援（子育て支援担当者）

	内 容	評価点
①	子育て支援事業について、利用者にパンフレットやおたよりでわかりやすく説明する	2. 5
②	親しみやすい雰囲気心をかけ、利用者に積極的に声をかける	3. 0
③	講座等で子育ての学習の機会を設けて、親の支援ができる場を作る	1. 5
④	利用者同士の関係が作りやすいよう配慮して、遊びや場の設定をする	2. 5
⑤	どの利用者にも公平に接する	3. 0
～主な成果（よくできたこと）～ ・来所してくれる子ども達が帰る時間になっても「帰りたくない」と言ってくれた時、すくすく広場で楽しんでもらえると実感する。そのため各児に合った話題で声掛けをしたり、家庭では見られない児の姿を保護者と共有することで信頼関係を持ってもらえるように尽力できたと思っています。 ・利用人数は減少しているが毎月の行事では、内容を色々考え、来て楽しめるように考えてきた。行事の時は興味をもっていつもより沢山来てくれたと思う。今年はリトミックを2回行ったが飽きることなく楽しい内容だった。一緒に体を動かしたり、歌を歌ったりと一緒に楽しめる内容にしたのは良かった。		

・広報に子育て支援施設の内容を毎月載せてもらう事で“見てきてみました”と話してくれた親もいた。効果ありだった。

～課題（今後やるべきこと）～

- ・利用者から指摘されて気付くしくみが何回もあり、一度読み直しを行いあいまいな表記を見直して行きたいと感じた。
- ・昨年に比べ利用数が減少している。働く親が増え、早くからこども園に入園してしまうこともあり来年度も減少が見込まれる。対象になる子は低年齢（0・1歳児）が増え小さい子向けの遊び（親子遊び etc）の工夫が必要と痛感する。
- ・すすく利用規定の確認と見直し（父兄からの指摘があったため）
- ・鶴川町の出生数が20人前後と少ない割に子育て支援施設が多い。色々な機能を持った1つの施設にまとめることはできないのか。（どこも利用者が少なく、同じメンバーが利用している。）また、他市町村の親子の受け入れ等、幅広い利用者の拡大が必要ではないか。

むかわひかり認定こども園の教育・保育目標

- ・ 元気で明るい 子ども（体）
- ・ 思いやりのある 子ども（徳）
- ・ 自分で考え 行動する子ども（知）

〈 具体的な取り組み 〉

体・・・COT（コオーディネーショントレーニング）、リズム遊び、散歩（歩く）、サッカー、園庭や公園での遊びや遊具の活用、プール活動等で丈夫な体を作る。

徳・・・たてわり保育、様々な行事（老人ホームの訪問や町内各種イベントの参加を含む）、友達との自由遊び、花や野菜の栽培、昆虫などの飼育等で思いやりの心を育てる。

知・・・英語、制作活動（粘土、工作、絵画等）、手遊び、歌やダンス、読み聞かせ、様々な玩具類の活用、町内めぐり、見学旅行、虫歯予防教室、食育教室、交通安全教室等で豊かな心を育てる。

1、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

「子ども子育て関連3法」に基づく「子ども・子育て支援新制度」が平成27年度から本格的にスタートし、本園では幼稚園教育要領・保育所保育指針と分かれた教育・保育要領を幼保連携型認定こども園教育・保育要領として一本化した。今年度も保育計画を随時見直しをして、実践している。

2、外部指導者の招聘

今年度もCOTや英語、食育、交通安全教室、サッカー、ダンスなどで、外部から講師を招き実践する。子ども達にとって、外部指導者からの専門的指導は大きな刺激となりました。

3、保育者会議

全保育者を対象とした保育者会議（月一回）を実践している。翌月の行事の提案・検討や終了行事の反省、事故防止に向けた取り組みや各クラスの状況報告の他に研修時間も設定している。各種研修会に参加した保育者は研修時間の機会を活用して報告、交流することでその成果を還元した。

また、保育者会議には資料を事前配付し、職員は目を通してから会議に臨むようにし、会議を効率よく実施している。

※ 保育者会議の活性化を図るため、最低一人一発言を目標に取り組みを進めている。

（ 積極性や主体性は、園の活性化につながり、協働体制を創り出す ）

4、次年度にむけて

今年度の成果と課題を次年度に生かしたい。